

心臓内に器具 脳卒中予防

徳島赤十字病院が新手術

小松島市の徳島赤十字病院は、脳卒中の予防に効果がある最新の左心耳閉鎖手術を導入した。「WATCHMAN（ウォッチマン）デバイス」という幅21〜33ミリの器具を心臓内に設置し、脳卒中の原因となる血栓の発生を抑制する。8月、デバイスをを用いた手術に四国で初めて成功した。

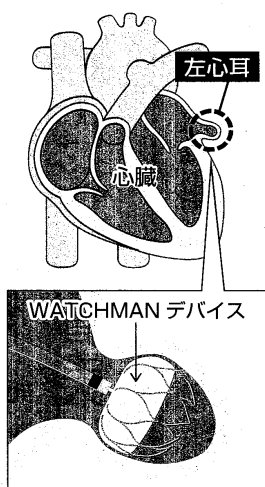
左心耳は心臓の左心房にある袋状の器官で、小さく狭まった空間のため血液が滞留しやすく血栓ができやすい。心臓で発生した血栓で脳卒中が起きる症状の90%以上は、左心耳が原因とされる。

閉鎖手術では細い管（カテーテル）を脚の付け根から心臓まで通し、管を通して



WATCHMANデバイス
（徳島赤十字病院提供）

左心耳閉鎖手術の仕組み



てデバイスを左心耳まで運ぶ。左心耳の入り口をふさぐように装着すると血液が入らず、血栓が作られなくなる仕組み。左心耳をふさいでも心臓の機能に影響はない。



小倉理代医師

デバイスは人体に害を及ぼさないポリエチレンなどの素材で作られており、装着後は約1カ月で皮に覆われる。手術は約1時間と短く済み、体への負担が少ない。

四国初導入 血栓の発生抑制

れていたが、脳や消化管が傷ついた際に出血が止まらなくなる危険性があった。左心耳を切除する方法もあるが、心臓に近い胸を切り開くため、合併症などのリスクが高いと考えられている。

デバイスをを用いた閉鎖手術は昨年9月に保険の適用が認められ、全国で普及が進んでいる。一方で、導入にはカテーテルを用いた手術の経験数などで国の厳しい基準を満たす必要がある。実施できる病院は限られている。

徳島赤十字病院では8月、初めて県内の70代男性に閉鎖手術を行った。男性は過去に左心耳が原因の脳卒中を2度発症しており、効果的な予防策が求められていた。治療1カ月後も体調は良好という。

執刀した循環器内科副部長の小倉理代医師は「脳卒中のリスク低減に画期的な治療法を導入できた。心臓に不安のある人はぜひ診察を受けてほしい」と呼び掛けている。

（濱岡幸宏）